

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 南丹市立園部中学校 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	(1) 講演会 南丹市立園部中学校全校生徒（387名）、 教職員（35名）、保護者（10名）合計432名 (2) 実技講習会 南丹市立園部中学校軟式野球部 42名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ 実技講習会 ） ③
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックの精神の理解とオリンピアの生き方から、より高い目標を目指し、希望をもってやり抜く強い意志を持つ。 また、オリンピック競技に採用される野球について、オリンピック経験のある元プロ野球選手の講演から、野球への興味関心の向上と将来オリンピックを目指す選手育成のきっかけとしたい。
5 取組内容	(1) 事前学習の実施 ①オリンピック・パラリンピックの歴史についてDVDの視聴 スポーツ庁作成の「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」を用い、オリンピック・パラリンピックの歴史についての理解を図った。 ②壁新聞の作成 DVD視聴の後、野球部員を中心にオリンピック・パラリンピックに関してまとめた新聞を作成・掲示した。また、2020東京オリンピック・パラリンピックで復活する「競技・野球」についてのオリンピックでの歴史について作成した。



③講師の山田秋親氏の紹介DVDの放映

2000年シドニーオリンピック日本代表当時の映像を中心に、その後のドラフト会議、プロ野球での様子について放映し、講師の紹介をした。

(2) 講演会の実施

日時 平成30年7月13日(金) 11:30 ~ 12:15

演題 「Never Give up ~限らない挑戦~」

講師 びわこ成蹊スポーツ大学職員 硬式野球部コーチ

山田 秋親 氏 (2000年シドニー五輪野球日本代表、
元福岡ソフトバンクホークス投手)

講演内容

オリンピックやプロ野球の世界に身をおいて感じたことを基に、中学生に期待することを講演していただいた。

- ①努力とは「継続すること」。諦めないとは、どれほど「自分に厳しく」真っ正面から向き合うことができたか。目標は努力次第では、必ず叶えることができるもの。
- ②挑戦とは「自分で考えて行動する」こと。人に言われてから動くようでは挑戦ではない。向上心、積極性がないと、人は挑戦することすらできない。
- ③何気ない1日はない。何か1つ感動を見つけることで人生のプラスになる。日々の練習をひたむきに頑張る。そして、自分の成長、仲間の成長を見つけよう。それこそ、成長に繋がる。
- ④10年後の自分に「期待」しよう。自分自身が自分を期待しないと「行動」には移せない。行動に移さないと「結果」には繋がらない。
- ⑤「中身のある人間」に成長して欲しい。人間としての基盤をしっかりと備えよう。だからこそ、競技を問わず「あいさつ」に力を入れよう。誰が聞いても気持ちの良いあいさつは、心地良い。いつも近くで見守ってくださっている家族や友人、先生や地域の方々にあいさつをしっかりとしよう。



(生徒の感想から)

- 私は、「努力は実るまでやらないと、それは努力ではない」という言葉に、とても共感しました。努力を続けることはとても難しいし大変だけれども、しっかりと頑張りきれような自分になりたいと思いました。「これぐらいやったらいいだろう…」などと努力を途中でやめて、諦めてしまうのではなく、結果が出るまで全力で努力を続けます。そして、向上心を持って練習にも取り組み、まずは口丹波大会を頑張りたいと思います。
- 山田選手は小さい頃、オリンピックや甲子園に出場するなんて思ってもいないような夢が、高校、大学と野球を頑張ることを続けた結果、オリンピックに出場するという「夢」が叶ったことは、本当にすごいことだなと思いました。そして、講演会の題名にもあるように「限らない挑戦」をすることで、自分の予想を超えることが起こったり、夢が本当に叶ったりするという実体験を聞き、僕も何事も前向きに挑戦していきたいと強く思うことができました。
- 山田選手は、挑戦をし続けた結果、苦しい思いをたくさんしてきたと思います。でも、自分を信じて、一生懸命頑張っていくことにより、夢を叶えたなんて本当にすごいことだと思いました。今、僕は将来の夢を探している最中です。山田選手のように、今できることに挑戦し続けると、必ず自分の夢を見つけられて、その夢に向かって頑張っていけるのかなと思います。「1日1回の感動」をして、1日1日を大切にしていきます。少しずつ自分を変えていきたいと思います。

(3) 実技講習会の実施

日時 平成30年7月13日(金) 13:30 ~ 15:30

場所 佛教大学園部グラウンド

講師 びわこ成蹊スポーツ大学職員 硬式野球部コーチ

山田 秋親 氏 (2000年シドニー五輪野球日本代表、
元福岡ソフトバンクホークス投手)

指導内容

練習を行い、気づいたところをワンポイントアドバイスを頂く形で行った。特に、「オリンピックやプロで活躍する選手のすごさは、全てファインプレーをしているのではなく、アウトにできる打球をすべてアウトにするからこそ上手なのだ。だから、何よりも基本が大切」という言葉が心に残った。選手たちは、元プロ野球選手に教えていただけるということで真剣な表情でアドバイスを聞き入っていた。



	<p>(4) 事後指導 講演会終了後には、全校生徒が感想を記入し、自分なりのふり返しを行い、講演内容のまとめを行った。また、実技講習会を受けた野球部員は教わった内容や感想をまとめ、感想文集を作成した。</p>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 夏の部活動の大会やコンクールを控えた時期に開催したことで、大会に臨むモチベーションを高めることができた。特に、オリンピックに出場した選手でも「緊張した」との発言を聞き、自分たちと照らし合わせて考えることができた。その後、サッカー部が京都府大会で準優勝を果たし、初の近畿大会へ出場した。 • 山田氏が京都市内の公立中学校、府立高校の出身と聞き、生徒たちは自分たちと同じ公立学校からオリンピックに出場したことに驚いた様子であった。オリンピックに出場する選手は、専門的な学校を出ていると思いがちだが、感想にもあったが、「目標は努力次第で叶う」ということを理解することができた。 • この事業をきっかけに、教員側のオリンピック・パラリンピックに関する意識も向上し、社会科の外国に関わる学習や英語科でもオリンピック・パラリンピックを題材に用いながら学習を進めることができた。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • テスト後の三者懇談期間中であったために、特設での総合的学習の時間を設定することができず、事前学習は、5日間、給食時の時間を使って行った。本校は全教室へのTV放映が可能であるため、事前学習の際には、スポーツ庁作成の「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」を用いて行った。 • 山田氏と事前打ち合わせを丁寧に行い、本校の教育方針を理解していただいた上で、講演内容を決めていただいた。本校生徒の興味ある内容となった。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • オリンピック・パラリンピックの取組が単発で終了するのではなく、継続したものとしていきたい。特に、3年生が最後を迎える大会前に行うことは、生徒のモチベーションの向上にもつながった。しかし、夏休み前の多忙な時期になるので、4月からの見通しが必要になる。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 来年度もオリンピック・パラリンピックに出場した選手からの講演会を実施していきたい。